令和８年度　　第４学年　　授業改善推進プラン　　小平市立小平第二小学校

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン、具体的な手だて）
国語	・友達の意見は聞いているが、自分の考えと比べて考えを深めようとする児童が少ない。 ・文学的文章の学習では，叙述を基に想像したり考えたりすることに苦手意識をもつ児童が多い。 ・文章の書き方や原稿用紙の使い方など、書くルールを身に付ける必要のある児童が多い。 ・小テストで漢字を書ける児童でも、日常的に漢字を使う意欲が低い。 ・語彙に個人差がみられる。語彙を意図的に増やしていく必要がある。	・児童が友達の意見による考えの深まりを実感できるように、少人数での交流の場面を週に１度は作る。また、友達の考えを聞いた後、自分の考えを再考し、付け加えをする時間を確保するようにする。 ・文学的文章を読む際には本文に書き込みをさせることで、想像したことや考えたことへの根拠となる部分や文はどこなのかをはっきりさせる。考えを伝える際、根拠となる部分が叙述のどこにあたるのかを伝えられるようにしていく。 ・文章を書く際に、漢字を使うように声を掛け、日常的に漢字を使用する意識を高めていく。 ・児童に獲得させたい言葉を教師が説明したり、意図的に使ったりしていく。また、国語辞典をすぐ使用できる場所に置き、気になった言葉と出会った際にすぐ辞典を引くことを習慣化させる。
社会	・社会的事象について興味や関心のある児童は多いが、それらを自分事として捉え、自分の考えを表現することができる児童が少ない。 ・資料やICT機器を活用して調べることはすすんで行うが、調べたことの中から必要な情報を見付け、自分の言葉でまとめることが難しい児童が多い。 ・都道府県の名称と位置の習熟に個人差がある。	・自分事として捉えることができるような資料提示、表現の仕方（ポスター、新聞、図など）。を工夫する。 ・調べたことの中から、キーワードとなる言葉に印を付け、その言葉を使いながら、全体でまとめていく作業を繰り返し行う。そのことで、個人でもまとめる力を身に付けさせていく。 ・年間を通して繰り返し都道府県について扱う。都道府県かるたやパズル、学習者用端末などを用いて児童の意欲も高められるようにする。
算数	・５展開の習熟別指導を行っている。 ・既習事項の基礎的な計算（九九）などをさらに身に付ける必要のある児童がいる。 ・課題解決について自分の考えを明確に示すことが難	・５展開指導で児童に応じた習熟度指導を行い、個人差に配慮した授業展開をする。 ・既習事項の定着を確認しつつ、反復して練習問題等に取り組ませ、習熟を図っていく。 ・単元に応じて式の意味や考えを交流する場面を作り、友達の意

	しい児童が多く、個人差も大きい。 ・既習の四則計算の習熟に差がある。	見を取り入れたり、参考にしたりすることで考えの示し方や図示する方法などを身に付け、その必要感や有用感を感じられるようにする。
理科	・観察や実験から分かったことや気付いたことからの「考察」の文章を書くことに難しさを感じている児童が多く見られる。	・板書に考察は①問題の答えと②予想と比べての二つを書くことを指導している。また、書くことが苦手な児童への手立てとして最初から文章を書かせるのではなく、ある程度のまとまった例文を板書してキーワードを埋めていくような指導を行う。 (例) ４年生「雨水のゆくえと地面のようす」の砂場の砂と校庭の土では水のしみこみ方にはちがうことが実験で分かった後の考察の板書の指導 ① 水がしみこみやすいのは__の方だった。これはつぶが大きいと__がたくさんできて水が通りやすくなるからだと思う。 上記のような例文の板書をして__部に入りそうな言葉を考えさせる指導をする。
体育	・運動が得意な児童と苦手な児童の二極化が進んでいる。 ・「自ら学び続ける児童」という姿には、ほとんどの児童がまだ至っていない。	・運動が苦手な児童も前向きに取り組み、得意な児童も退屈せずさらに技能を高められるよう、器械運動などでは様々な場を用意して自分にあった学習ができるようにする。 ・ゲームでは、初めの規則は簡単なものにして誰でも取り組めるようにする。単元の序盤でクラスの実態に合わせて規則の工夫を児童とともに行い、苦手な児童も運動の特性を味わえるようにする。 ・児童が自分のなりたい姿や自分のめあてを明確にもてるよう、単元全体のおおまかな流れや本時の学習の流れを明示する。 ・「見通し（Anticipation）」「実行（Action）」「振り返り（Reflection）」の「AAR サイクル」が回せるよう、授業の冒頭では自分やチームのめあてを決めさせ、運動学習場面を多く設け、最後には振り返りをさせて次時に繋げるという授業の流れを定着させる。また、それを助ける学習カードを作成する。

道徳	・道徳的な価値については理解しているものの、自分自身の生活と結び付けて考えたり自分の行動を振り返ったりすることが難しい。	・導入の段階で、道徳的な価値について触れたりできていない自分自身を見つめたりすることで、終末にも自分自身と結び付けて考えることができるようにする。 ・終末での振り返りを毎時間必ず行うようにし、道徳的な価値を自分自身と結び付けて考える機会を増やす。
外国語活動	・発音が難しかったり、単語を覚えきれなかったり、恥ずかしがったりして、外国語を口に出すことが難しい児童が一定数いる。	・アクティビティやゲーム、歌など様々な種類の活動を工夫して取り入れることで、話すことへのハードルを下げるとともに、自然に英語の音声や表現に触れられたり、身に付けたりできるようにする。